

草の根・人間の安全保障無償資金協力

贈与契約署名式
「ザレカ難民キャンプ・ウモジ・カトゥブザ小学校
低学年用校舎建設計画」
(マラウイ・イエズス会難民サービス)

2013年2月27日



関係者による記念撮影（写真左からリムUNHCR当地代表代理、クルツ被供与団体代表、チサミレ内務省次官補、寒川大使、マカイカ被供与団体運営統括）

2013年2月27日、寒川富士夫駐マラウイ特命全権大使はエスター・クルツ・マラウイ・イエズス会難民サービス(JRS)代表と、草の根・人間の安全保障無償資金協力「ザレカ難民キャンプ・ウモジ・カトゥブザ小学校低学年用校舎建設計画」のための89,176米ドルの贈与契約に署名しました。本案件では低学年用の校舎3棟（6教室）建設及び机・イスの整備とトイレ3棟建設を実施します。

ザレカ難民キャンプで暮らす子どもたちは、内戦等で母国を逃れ、多くは辛い経験からトラウマを抱えています。JRSはUNHCRと協力し、難民に対して多様な教育の機会を提供しています。その一環としてウモジ・カトゥブザ小学校を運営しており、難民の児童に対し質の高い初等教育及びカウンセリングを提供しています。しかしながら難民数の増加に伴い児童数も増加し、1クラスの児童数が100人を超え、教員による指導・ケアが全員に行き届かなくなっています。本案件の実施により1クラスの児童数が100人から60人に減少し、質の高い授業、各児童へのカウンセリングの提供が可能となることが期待されています。

本式典はチサミレ内務省次官補が主賓として、リムUNHCR当地代表代理が本案件の協力機関を代表して出席しました。

